

第二七回受賞作品（一九八六年）

新潟市美術館

前編

一九八五（昭和六十）年十月、新潟市民が美術に親しみ、創作活動を行う場として待ち望まれていた美術館がオープンした。設計者は建築家・前川國男。前編では、新潟の地域性と前川の出生の地への思いがあらわれた計画を振り返る。

常設展示室のロビーの前にある「山の庭」。吹き抜け空間がゆとりを感じさせる。ロビーに面する壁面には、新潟市に生まれ、館を設計した前川國男を紹介するパネルが展示されている。



上／中央に斜めに設けられているエントランスブース。南に面し、広い車寄せをもつ。向かって右手に「海の庭」が配置されている。
左／「海の庭」。エントランスホールから企画展示室へ向かうスロープに面している。池の位置は、美術館に向かい合う公園に設けられた堀に結ばれている。

建築家・前川國男が生誕地に初めて設計した建築

新潟駅から信濃川にかかる萬代橋を越え、市街地の日本海側に近い西大畑町の一角に新潟市美術館は建っている。海岸まで三〇〇メートル足らずの場所、一帯の地形は砂丘地のアップダウンが特徴となっている。美術館の外観を一目見て、

深いオリブグリーン色の釉タイルに覆われた姿に引きつけられる。色味も、素朴な表情も一枚一枚異なる陶の魅力が混ざり、建物全体が美術品のような存在感を放っている。設計者は日本の建築界をリードしてきた前川國男（一九〇五～一九八六年）。最晩年の建築であり、それまでつくり上げてきた全ての建築に流れている考え方が、

新潟の気候風土に合わせてつくり込まれているという。

美術館の計画がスタートしたのは一九七八（昭和五十三）年。「当時、全国の自治体で文化施設を求める気運が高まっていました。新潟市も同様で、市と美術愛好団体が主催する『新潟市美術館』の一〇周年企画として美術館建設運動が起きました。その頃は市民が絵画などの創作活動を発表する場所といえば、県民会館や百貨店の催事場しかなかったんです。市の営繕課で建築担当だった関尚久氏が振り返る。「そこから三年をかけて建設計画がつけられました。八二年に基本計画を発表し、設計者の選定方法を検討した結果、指名設計コンペ方式で行うことになりました」。審査委員は七名。審査委員長の芦原義信氏をはじめ、外部の建築専門家が過半数を占め、応募要項も厳密につくられた。建設用地は前年に西大畑町にある旧新潟刑務所の跡地に決まっていた。刑務所は七一年に移転しており、その敷地の中央に都市計画道路が通され、八二年以前に美術館の予

定地と向き合う形で公園として整備する計画が公園緑地課によって進みつつあった。「しかし、この公園計画を見直し、美術館との一体的な活用と設計が望ましいと判断して、コンペの設計条件に盛り込むことになりました」。市民に開かれ、より優れた美術館を建てるために、市には意気込みと努力があったという。

そうそうたる顔ぶれの応募六社のなかで選ばれたのは、前川國男建築設計事務所案だった。講評では、限られた敷地を有効に使い、展示室を配置しながら外部空間を巧みに取り入れたプランニングや、公園との一体化の考え方など、総合的に高く評価されている。

新潟の懐かしい風景を公園に再現する

新潟市美術館を取り巻く、ゆつたりとした環境は、道路を挟んだ西大畑公園も一体で前川が設計すること生まれたものだった。「コンペの現地説明会に行ったら、公園の敷地は刑務所の運動場だった高さのまま、道路から二メートル



上/打ち込みタイトルの壁面。1枚1枚の表情が異なり、同じものがない陶の作品のようだ。孔あきタイルはコンクリート型枠のセパレーターを通したタイル。一部はデザイン統一のために使用。下/開口部を壁面より後退させ、上部(まぐさ)に庇の機能を持たせた。洗い出し仕上げの擬石プレキャストコンクリート。打ち込みタイトルの躯体にはめ込まれている。

の土盛りがしてあり、風が吹けば砂埃が舞う状態でした。それを美術館と同じ高さになるように削り、地面に同じインターロッキングブロックを敷いて、広がりをつくりだしました」。前川國男建築設計事務所的设计チーフとして新潟市美術館を担当した高橋義明氏が語る。「そこに新潟市生まれの前川さんが、昔の町の風景を蘇らせようと、堀と船着き場をつくり、柳を植えたんです」。かつて、新潟は舟運の町で、町の縦横を堀が巡り、堀の脇に柳が立ち並んでいたという。一九六四年、新潟国体開催のときの道路整備で、すべて埋め立てられたが、水と緑に彩られた暮

しの記憶は、市民のなかに生き続けている。その再現は安らぎを生み、さらに公園内の桜も育って、現在はすばらしい雰囲気の公園となっている。市民が散歩したり、引率された幼稚園児や小学生たちが集う姿が、美術館のエントランスロビーやカフェからも道路越しに目に入る。ほとんど気付かれないうが、実は計画の際に道路沿いの電柱を地下埋設し、視界を通すという配慮がなされていた。

**厳しい自然条件から
コンクリートを守る
「打ち込みタイル」工法**

日本海に近い砂丘地であり、季

節風が強く、寒冷地であること。こうした気候風土に合わせてつくられた美術館の特徴はどのようなところに見られるのだろうか。「前川さんは、テクニカル・アプローチということをよく言っています。建築設計は技術的に固めていかなければならないということです」と高橋氏。その代表が「打ち込みタイル」工法である。コンクリート建築を長持ちさせるために、物性が安定し信頼性の高い焼き物タイルで被覆する。それも駆

体の表面にあとからタイルを接着するのではなく、型枠の内側にセットして、コンクリートを打設し、タイルと躯体を一体化する工法である。潮風が当たる環境ではコンクリート打ち放しは劣化が早まる。新潟市美術館のタイルも、打ち込みにより、がっちりとした躯体を守りつつ、タイル同士が並ぶ溝が彫りの深い表情をつくりだしている。こうした技術を駆使するために、施工者と連携を図る方法も練られたものだった。



道路を挟んで美術館と向かい合う西大畑公園には、昔の新潟の街を特徴づけていた堀と船着き場、柳並木が再現された。堀と、美術館のエントランス、「海の庭」はまっすぐに結ばれている。

建築主より

力強く、生きていく建築が、つくられる過程を体験した日々でした



新潟市監査委員事務局参事
関尚久 Naohisa Seki

私は指名設計コンペの準備段階から竣工まで担当しましたが、打ち込みタイルは新潟市で初めての経験で、施工J.V.の加賀田組さん、福田組さんも苦労されていました。コンクリート打設の圧力がかかり、中には角が欠けるタイルも出てくるんです。そのときにやり直して言われるんじゃないかと皆青くなっていたのですが、前川さんに相談すると「それはそれでよい」とおっしゃられました。その後、竣工のときに会計検査院の方が来られてタイルに目を留められ、欠けているという指摘を受けました。その時は前川さんに伺っていたお話をそのまま伝えたいです。「タイルは焼き物で、自然の火の力でつくられ、一枚として同じ形のものはない。それらがコンクリートの圧力に耐えながら型枠との間で揉み合って、建物を形づくっている。現場の人たちの力もそこに加わっている」と。前川さんは「この建物は生きていますよ」とおっしゃっていました。たと検査院の方に伝えると、「なるほど、そうですね」と逆に感心して帰られたことが強く印象に残っています。施工は大変でしたが、出来上がってみると力強い生命力が感じられる建物だと思っています。前川さんの建築は、立体的な造形物として考え抜かれたものです。一〇〇年もつことを意識してつくられ、市民の大切な財産となっています。

設計者より

安定した材料で、耐久性の高い建築を目指しました



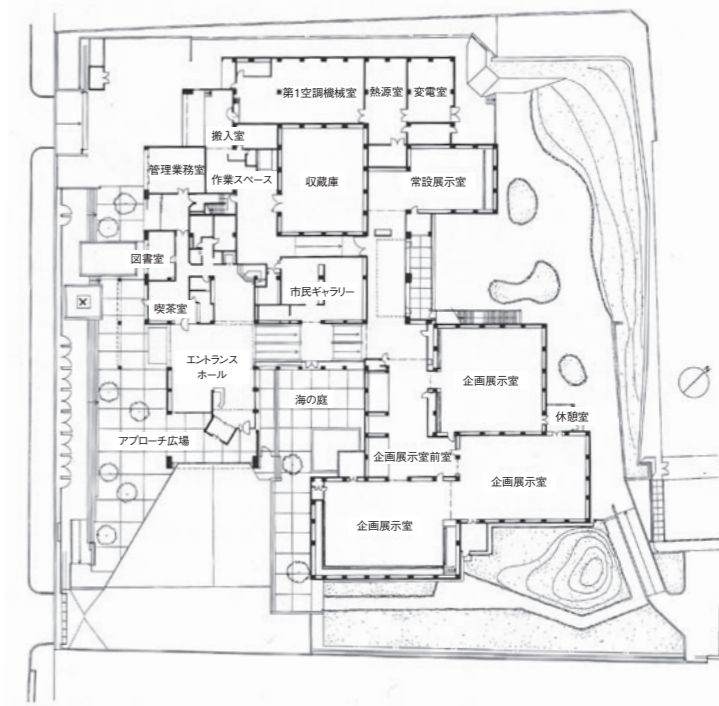
前川國男建築設計事務所(当時)
高橋義明 Yoshiaki Takahashi

打ち込みタイル工法は前川さんがパイオニアで、一九六一年に日本相互銀行の砂町支店で初めて使われました。部分的な使い方から日進月歩でどんどん進化していき、六六年の埼玉会館では全体的に打ち込みタイルになり、以降も七五年の東京都美術館や熊本県立美術館、西洋美術館新館など多くの作品があります。新潟市美術館の頃は成熟した技術になっていました。前川さんは東京都美術館を設計したときに「平凡な素材によって非凡な建築を創出する」という信

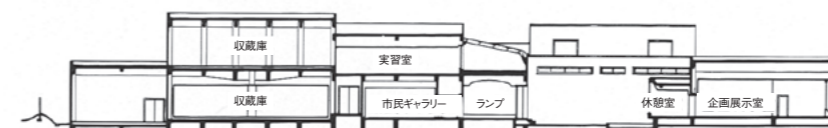
条を述べていますが、安定した素材を使って耐久性に優れた建築をつくるためにいろいろな工法を開発しました。打ち込みタイルのほかにも、PC工法、コルテン鋼とペアガラスの断熱サッシも新潟市美術館で使っています。また、窓の上の出庇に雪が積もると不具合が出ることが経験上わかっていたので、窓を壁からひっこめて庇の効果を得る方法を生み出しました。数年前に設計した長岡コンクリートセンターでは、打ち放しコンクリートを削って窓を後退させましたが、新潟の打ち込みタイルではその形ができません。そこで庇部分をプレキャストコンクリートでつくり、躯体にはめ込むことにしたのです。直角の造形でもいいところを、前川さんはコンクリートを鑄型に流し込むイメージの形がいいと言って、結果的にアーチのような形状になったのです。



2階平面図



1階平面図



断面図 (1、2階平面図と縮尺は異なります)

新潟市美術館前

JR新潟駅よりタクシーで約10分

新潟交通バス: 「新潟市美術館前」下車 / 「西堀通8」下車、徒歩約5分 / 「美術館入口」下車、徒歩2分



計画概要

- 所在地: 新潟市中央区西大畑町5191-9
- 建築主: 新潟市
- 設計者: 株式会社前川國男建築設計事務所+ミド同人
- 施工者: 株式会社加賀田組、株式会社福田組
- 竣工: 1985年3月
- 敷地面積: 9,725.19㎡
- 建築面積: 3,716.24㎡
- 延床面積: 4,675.93㎡
- 構造: 鉄筋コンクリート造
- 規模: 地上2階